



TOHOKU

EPO通信

[エポ]

VOL.
24

2017年
2月

東北環境パートナーシップオフィス



キリバス共和国における再生可能エネルギーの開発・普及事業現地調査、海で出会った子どもたち

CONTENTS

- 特集(寄稿) 第3回 みちのく薪びと祭りレポート
- ECO & 復興支援グッズ
- 東北6県 EPO トピックス

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)とは

東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取組創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さまのパートナーシップ作りを支援します。



の展示等の普及啓蒙活動を展開していることが報告されました。NPO法人川崎町の資源をいかす会 菊地重雄氏からは、宮城県川崎町において活動する「川崎—仙台薪ストーブの会」が、荒廃が進む広葉樹林の皆伐を行い、薪やきのご原木を楽しみながら得ている様子が報告されました。葛巻町森林組合 竹川高行氏からは、岩手県葛巻町において、薪の学校を開校し、首都圏向けの薪の販売や薪のイベント、小学生向けの森林環境教育などを行っている様子が報告されました。

第2部では、「震災後の福島県の薪利用の現状」と称して、行政、森林組合、薪ストーブ店、ユーザーより報告いただき、パネルディスカッションを行いました。福島県林業振興課 古川成治氏からは、薪の放射性物質に関する指標値の説明や使用する上での注意がありました。ふくしま中央森林組合 会田明生氏からは、原発に近い位置にある田村市都路地区において、しいたけ原木・薪が出荷できなくなったこと、それでも、伐採を進め、地域を守り支えてきた森林・林業の再生を目指す旨の決意が述べられました。西白河郡西郷村で薪ストーブ店を営む、有限会社アルパイン 大橋善博氏からは、薪ストーブユーザーへのアンケート調査結果の報告。それによると、震災後も一部入手ルートは変わっているものの、線量を下げる工夫を行いつつ薪ストーブを使い続けている姿が浮かび上がりました。公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団 佐藤重敏氏からは、安達太良山中腹にある森林公園「フォレストパークあだたら」において、オートキャンプ場のコテージに設置してある薪ストーブの薪が震災後、隣県産の原木等に変ったことや、施設の利用客を呼び込むために、安全基準の遵守と情報公開を徹底している様子が報告されました。

その後のパネルディスカッションでは、白川勝信氏がコーディネーター、上記の4名と私がパネリストとなり、議論を行いました。会場を巻き込んだ白熱した議論

になりましたが、祖先が残してくれた豊かな里山をなんとか次世代へつなごうと、みんな希望は捨てていないという想いが共有されました。

翌11月27日の第3部では、原木の放射線測定器や自動薪割り機、縦ログ工法で建てられたホシッパの家等、みなみあいづ森林ネットワークの取組を見学しました。原木の放射線測定器は、丸太を機械に通すと放射線量が表示されるもので、きのご原木の全木検査を行っています。参加者は、持参した丸太を測定し、基準値以下であることを確認すると安堵した表情を浮かべていました。



■薪びと祭りを終えて

みちのく薪びと祭りは、今年で3回目。第1回は山形県鶴岡市三瀬地区において開催され、東北各地での取組が報告され、三瀬地区における地域ぐるみの取組への弾みになりました。第2回は岩手県遠野市において、各団体での薪の規格や問題点等が議論され、今後活動を展開する上での基礎的な情報が共有されました。

そして第3回となる今回のテーマは、避けては通れない放射能問題。福島県内の現状報告と議論により、実際にどういう状況なのか、対策はどうしているのかが参加者に理解していただけたと思います。また、森林の再生に向けた希望も共有できたことが、大きな成果となりました。私自身、大きく励まされた今回の祭りとなりました。



次の開催地 宮城県へ（予定）引き継ぎ

ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）

01. 竹紙物語 竹紙カード・名刺用紙

仙台七夕まつりの竹がエコな用紙に生まれ変わりました。
仙台の風景画入りで名刺・メッセージカード等、使い方は自由自在です。

■問い合わせ先/**株式会社孔栄社【仙台マーチング委員会】**

仙台市青葉区立町16-13
TEL : 022-262-4545
FAX : 022-216-4176
Email : info@k-koueisha.co.jp
<http://www.sendai-joukamachi.com/>



■価格 1,500円（税別、送料別）

02. 未来の一本松 タオルハンカチ

『奇跡の一本松から未来の一本松へ』をテーマに、弊社と東京で活躍する柄デザイナー macha さんがコラボしたオリジナルタオルハンカチ。華やかで楽しさや明るい未来を感じる一本松を表現、花言葉のステキな花を選びました。サイズは20cm×20cmです。

■問い合わせ先/**ファッションロペ 株式会社東京屋**

岩手県陸前高田市竹駒町字相川7-1
陸前高田未来商店街内
TEL : 0192-54-4545
FAX : 0192-54-4545
Email : rope.tokyoya@gmail.com



■価格 500円（税込み）

03. 無事かえるリュック

無事かえるリュックは、株式会社ナカジマコーポレーションと共同企画。弊団体は東日本大震災での被災体験からその監修を担当。「大人や子どもでは必要だったものが違っていた」という観点から、大人サイズと子どもサイズの2パターン展開で、機能面としてリュックの中には防災豆知識本などそれぞれに防災、被災時に役立つ豆知識と大切なものを守ってくれる防水ポーチが入っています。

なによりも家族で日頃の会話を通じ、自分の命を守ることを意識してもらうことが大切。そんな想いを込めています。

■問い合わせ先/**特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク**

宮城県石巻市穀町12-18 石巻駅前ビル4階
TEL : 0225-23-8588
FAX : 0225-23-8588
Email : info@yappesu.jp
<http://yappesu.jp/>



■価格 大人：6,500円
子ども：3,900円（税抜き）

青森

AOMORI

ちびっこ巨木撮影会2016 “森の巨人を撮ったぞ!!”

カメラ片手に青森市郊外の里山に入りました。赤い鳥居を潜ると、そこには生き生きとした自然の営みと巨木が住む森がありました。

私たちは、地域の自然の素晴らしさや、木と森の文化の大切さをもっと地域の子もたちに知ってもらおうと、昨年、「ちびっこ巨木撮影会」を開催しております。この活動は、子ども達がカメラ片手に森を散策し、普



段気にも留めていなかった自然の中に驚きや発見の喜びを体験させようとしたものです。今年、新たに制定された国民の祝日「山の日」の8月11日に青森市



浅虫で開催しました。小中学生15名を含む総勢48名が「森の巨人たち百選」(林野庁)に選ばれた馬場山アカマツ巨木を目指しました。途中、小道を覆うミズナラやイタヤカエデの木々の間からこぼれる陽光、そよ風が子ども達の頬を撫でます。子ども達は、森林セラピストでもあるガイドの野宮氏の、ウルシの見分け方、臭いの強いサンショウやクロモジの木の特徴、野鳥と植物の共



存関係、植物の葉や茎を利用した遊び方等の話に目を輝かせていました。道端には大小色鮮やかなキノコや真っ白で可憐な草花、傍を飛ぶアゲハチョウやシジミチョウ。子ども達は夢中でカメラを向けておりました。子ども達が撮った写真は11月開催の「青い森の巨木写真展2016in青森」と「青い森の巨木写真展2016in函館」で展示されました。この活動が将来、巨木ツアーや修学旅行等の体験型観光に結び付き、温泉不況に苦しむ青森市浅虫の地域活性化につながってほしいと思っております。



特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク
http://www.odorokikobo.com/

〒038-0003 青森県青森市大字石江字江渡106-227

TEL・FAX：017-781-4612 (携帯080-1671-1487) Email：odoroki7@bc4.so-net.ne.jp

岩手

IWATE

「薪ストーブで暖かな地域づくり」に貢献することを目指して

町で進めている森林エネルギーの利用拡大、その中核である薪ストーブの利用拡大を町民全体、地域全体に広がることをねらいとして集まっている会です。

本町は林業が盛んな地域でしたが、時代の変化により近年は衰退しています。一方、地域には町土の90%にも及ぶ森林があり、それを活かさずして地域の活性化はできないものと考えています。しかし、どのように進めたらいいかが課題です。用材生産などで昔と同じような姿にはなれないと思います。小さなことでも皆で取組めば大きな成果となるような取組を進めたいと考えています。それが、薪ストーブの利用拡大です。薪ストーブは、地域に馴染みのある暖房器で、しかも暖かい、炎を見ていると落ち着くなど他の暖房器にはない効用があります。更に、利用者によっては、山から薪づくりをしているなど、森林と深く係わりながら生活しています。多くの住民が、森林に関心を寄せられる点も良いと

思います。薪ストーブの多面的な効用を、広く理解してもらうための活動をしています。「良い薪とはどんな薪か」から、「世界のバイオマスエネルギー事情を理解するための勉強会」などを町と協力して行っています。薪ストーブ展示会は、町の一大イベントである秋の収穫を祝う農業まつり時に開催しています。県

内外の複数のメーカーや代理店から出店してもらっているので、一度に種々のストーブを見ることができると好評です。ストーブを設置するには、住宅の改修が必要であることから普及拡大には難しい面がありますが、持続的な地域づくりとして今後も根気強く取組を進めたいと考えています。



薪ストーブ展示会の様子
(西和賀町森林エネルギー利用促進協議会)

西和賀町森林エネルギー利用促進協議会
http://www.gipc.akita-u.ac.jp/~akitadoj/

〒029-5692 岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田2-81-1 TEL：0197-85-3410

FAX：0197-81-2111 Email：ringyou@town.nishiwaga.lg.jp

宮城 MIYAGI

体験プログラムで地域をリ・デザイン

体験で地域の価値を再発見し、豊かな暮らしを実現する



私たちは栗原市民で構成する非営利団体です。「体験プログラム」を主体にツアーや販売など、年間約150回のイベントを実践しています。

農業を真ん中に育まれてきた地方の暮らしには、先人の知恵や工夫といったワザが脈々と受け継がっていますが、都市化や農業の大規模化などの生活形態の変化で、次第に家のなかで伝える機会が少なくなっています。

私たちの体験プログラムでは、地元で「まで」といわれる丁寧な文化を大事にして、郷土料理を含めた地元食や農作業、モノづくり、自然観察など、市民が職業や特技、趣味を生かした内容で企画しています。足もとにある地域資源を見直して、家のためにウチを向いてやっていることをソトに向けてすることで、地域の潜在的な価値が表現できるのではないかと考えています。

自然と共生することが現代よりもより必然だった昔ながらの暮らしのワザを実践することは、現代ではむしろ贅沢な時間なのかもしれません。忙しい日々なかで、短時間でも地域のワザを学ぶように、少人数制で作ったモノは持ち帰ることを基本に取り組んでいます。

例えば、料理教室の場合は、多くの場

合は共同で調理したものをみんなで食べて終わりますが、私たちの体験プログラムでは、なるべく参加者一人一人が調理し、講師が作った料理を試食するようにしています。自分が作った料理を持ち帰り、家族や友人、知人と一緒に食べることで、体験が他の人と共有できます。

体験プログラムを通じて、本来地域が自慢できるワザとヒトが輝ける場を創出していく取組みです。



一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク
<http://ktnpr.com/>

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味45番地

TEL : 0228-24-8588 FAX : 0228-24-8588 Email : kurihara.tn@gmail.com

秋田 AKITA

秋田の豊かな自然環境を守る環境技術

土壌や水の浄化及び資源リサイクルの環境技術で
秋田の豊かな自然環境を守るための活動を展開



秋田県は自然とのかかわりの中から、大規模な環境技術を発展させてきました。これまで、豊かな天然資源の中で伝統的に発展させてきた鉱山技術は、土壌から不純物を取り除く浄化と資源リサイクル技術に直結します。閉山された鉱山の坑廃水の処理には、最新のバイオによる浄化技術などが使用されています。

当法人は、鉱山専門学校が前身である秋田大学が中心となって産学官が連携し、秋田県内における土壌や水の浄化および資源リサイクルなどの環境に関す

る問題を解決するために、研究開発型NPO法人として平成17年1月に設立されました。現在、秋田大学や県内の鉱山関係をはじめ、建設、環境測定・分析、石油、産廃処理関係の企業その他、銀行なども会員となっております。このような会員の持つシーズを、実際のフィールドで研究することにより、実用化してゆくことを目的としております。従来大学の研究は論文を発表した時点で終わっていましたが、当法人では実用化のための研究開発プラットフォームを作りあげます。企業の側から見れば、暖めていたシーズに関して複数の研究者との連携が可能となり、一般に公開されていない最新技術も知ることができます。

また、「秋田の自然をもっときれいに

したい」と考えたとき一番大事なことは、人材の育成であります。いくら良い技術を持っていても、皆がその気にならなければ環境の浄化は進みません。大学生や大学院生とともに、中学生や小学生などに正しい知識を教え、環境の守り手を育成したいと考えております。具体的には毎年小学生高学年と保護者を対象にした「子ども科学教室」を開催しております。大学が中心になって当法人を立ち上げたのもこのような教育・啓発活動の展開を目指してのことで、教育は研究開発とともに中心的な活動のひとつと位置づけています。

※写真は平成27年度 子ども科学教室「土を調べよう。環境をはかろう」の実験風景

特定非営利活動法人秋田土壌浄化コンソーシアム
<http://www.gipc.akita-u.ac.jp/~akitadoj/>

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1秋田大学内

TEL・FAX : 018-889-3078 Email : akitadoj@gipc.akita-u.ac.jp

山形

YAMAGATA

野生動物を見たことがない人は人生をチョットだけ損している…かも？

高めよう！地域の野生動物力！

山形の野生動物を通じて地域環境の『今』を知るきっかけづくりに



人知れず減少していく希少種たちや増える獣害問題や外来種たち…これらの『野生動物問題』は、私たちの生活と決して遠い存在ではなく、家庭・学校・職場など、いつでも起こりうる身近な問題でもあります。しかし、これらの問題の実情や対処法を学ぶ機会は、まだまだ多くありません。当団体では、未来に残したい山形の自然・人・野生動物のために、不思議な隣人…野生動物の姿を知つ

てもらい、それぞれのライフスタイルに合わせた野生動物との付き合い方を考えることのできる場所を提供するために設立しました。

主な活動の中心は2つ、調査研究と環境教育です。調査研究では、県内外の官・民・大学と提携しながら地域の野生動物の生態や生息環境を調べています。

そして、人間と同じように個性や地域性豊かな野生動物の研究情報を還元するためのイベントや企画展などを毎月1~2回行っています。私たちの行う環境教育の特徴は、自然科学技術と5感を最大限に使った体験ができることです。



団体設立10年目の2017年は、山形県で絶滅危惧種のももんがを地域で調べ、守っていくためのももんがレスキュープロジェクトの始動や、小学生対象の自然科学塾ネイチャースペシャリストクラブのパワーアップ企画盛りだくさんです。今後も、『野生動物と人とのつながり』として、『地域の野生動物力』を高める活動をしていきますので、ぜひ私たちのHPや活動に一度お越しください！



やまがたヤマネ研究会

<https://yamagata-yamane.jimdo.com/>

TEL : 080-9636-6016 FAX : 080-9636-6016

Email : yamagata_yamane@ybb.ne.jp

福島

FUKUSHIMA

竹林の再生を通じて人と人のつながりを再生するプロジェクトです

福島空港公園を活用して、「竹馬でギネスにチャレンジ！！」を目指します。

■設立の経緯

NPO法人竹林再生プロジェクトは、いわき市を拠点にして荒廃した竹林の再生を通じて地域社会への貢献を目指すプロジェクトです。

現在、全国各地で「荒廃竹林」が問題になっており、各地域でもその解決のために自治体や各種の団体が懸命に取り組んでいます。



竹灯りづくりにチャレンジ中

いわき市もその例にもれず各地で「荒廃竹林」が問題化し、一部地域ではがけ崩れなど生活道路を直撃するなどの危険を感じています。



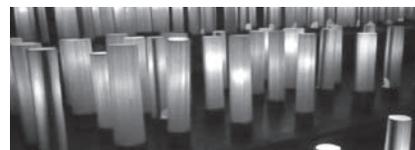
イベントに参加

当プロジェクトでは、竹林整備と竹の利用の2本柱でその問題の解決を目指します。

■活動実績

子供達の敏捷性や体力アップを目指し、竹馬教室を開催しております。

平成28年度は下記のようなイベントを開催＆協力をしました。



竹灯りの完成！！

- ①京都&岩手で「竹灯り」「竹紙あかり」づくりの開催
- ②伝承郷、公民館、学童保育で「竹馬教室」の開催
- ③いわき市アリオスパークフェスに出店(4月~11月)
- ④暮らしの伝承郷「キッズミュージアム伝承郷」に竹細工で協力
- ⑤いわき市公園緑地観光公社「竹で遊

- ぼう)水鉄砲づくり等に協力
- ⑥福島空港公園わくわくプロジェクト竹馬遊び&ものづくりに参加
- ⑦広野パークフェスに「竹で遊ぼう」に参加
- ⑧東京都港区生涯学習センター「ばるーんフェスティバル」に参加
- ⑨県主催「いわき大交流フェスタ」(竹とんぼ&ぶんぶんコマ)に協力

■今後の活動予定

竹林整備を推進しながら、各種イベントへの協力と竹馬教室を中心にギネスを目指します。



竹馬検定中

特定非営利活動法人竹林再生プロジェクト

<http://chikurinsaisei.blog93.fc2.com/>

〒970-8043 いわき市中央台鹿島3-34-5

TEL : 0246-31-0712 FAX : 1246-31-0712 Email : chikurin.saisei@gmail.com

● Web-Siteのご案内

- ◆ お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧
- ◆ 随時更新：お知らせ、活動報告、日記

お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！

● EPO東北オフィス利用案内

◆ 各種パンフレットやイベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しております。自由に閲覧いただけますのでお気軽にお立ち寄りください。また、チラシ等設置をご希望の方は持参または郵送でお寄せください。

◆ ミーティングルームのご案内

環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。ご希望の方は電話・メール等で事務局までご相談ください。

- 開館：月～金（祝日を除く）
- 利用時間：10:00～18:00
- 利用人数：12名まで

● EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

| | |
|-------------------|---|
| 青森県環境パートナーシップセンター | http://www.eco-aomori.jp/ |
| ECO リパブリック白神 | http://shirakamifund.jp/ |
| 環境パートナーシップいわて | http://www.iwate-eco.jp/ |
| 環境あきた県民フォーラム | http://www.eco-akita.org/index.html |
| あきた地球環境会議 | http://www.cееakita.org/ |
| 環境ネットやまがた | http://eny.jp/ |
| 超学際研究機構 | http://www.chogakusai.ecnet.jp/ |
| せんだい・みやぎNPOセンター | http://www.minmin.org/ |
| 環境会議所東北 | http://kk-tohoku.or.jp/ |
| 仙台広域圏ESD・RCE | http://rce.miyakyo-u.ac.jp/ |
| 環境パートナーシップ会議 | http://www.epc.or.jp/ |

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1F
TEL 022-290-7179 FAX 022-290-7181
E-mail : info@epo-tohoku.jp URL : <http://www.epo-tohoku.jp/>

勤務時間：月曜～金曜日【9:30～18:00】
閉館日：土日祝日・お盆・年末年始

発行日：2017年2月



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

メールマガジン登録者募集中！

発行頻度：第2週と第4週毎月2回

登録料：無料

内容：助成金・イベント情報、
EPO東北の活動情報など
環境にまつわるお知らせ

登録方法：EPO東北のウェブサイトより



環境イベントの告知を行います！

催事情報をEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。また、チラシを持参または郵送いただいた場合は、オフィス内に設置いたします。環境イベントを企画している皆さま、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。